

摘葉剤の上手な使用方法

～使用基準を遵守して～

りんごの着色管理である摘葉作業の労力を軽減するための植物調節剤に、「ジョンカラープロ」があります。

本剤は品種を問わず使用できますが、秋田県では‘ふじ’と‘やたか’での使用を勧めています。

「ジョンカラープロ」の登録内容（（ ）内は秋田県での推奨内容）

希釈倍率	500～1500倍 (‘ふじ’では500倍、‘やたか’では1000倍で使用します)
使用液量	400～700 L / 10a
使用時期	収穫30～50日前 (‘ふじ’は収穫40～50日前、‘やたか’は収穫30～40日前に散布します)
本剤の使用回数	1回
キノキサリン系を含む農薬の総使用回数	1回
MEPを含む農薬の総使用回数	3回以内

また、主な注意点として以下のことがあげられています

・ 散布の前後数日間気温の低い日が続くと効果が不十分なことがあるので、散布はできるだけ晴天で温暖な時に行う。また、重複散布はさける。

・ 次のような条件では過剰落葉・薬害のおそれがあるので使用をさける。

- ①樹勢の弱い樹。
- ②病害虫の著しい被害を受けた樹。
- ③極端な高温時。
- ④ボルドー液を散布した後の樹。

注意点にもあるとおり、「ジョンカラープロ」の効果は気象によって大きく左右されます。そのため、適度な効果が得られる条件をよく理解して使用してください。

効果の高い気象条件と散布時期の目安

散布後に最高気温25℃程度の日が2～3日続くと、適度な効果が得られます。

上記の条件を満たすのは、秋田県南部では9月20日頃までとなります。

天候は常に変わります。天気予報を確かめ、気温の変化に注意して散布適期を逃さないようにしましょう。

また、気温の低い早朝や夕方の散布は避けましょう。

展着剤は摘葉効果を高めるため、散布時期の気温が低い場合に使用すると効果が安定します。

ただし、浸透性や付着性の高い展着剤は過剰落葉の危険があるため使用は控えてください。



効果のあらわれかた

薬剤の効果は、散布後約1週間で見られはじめ、2週間後には完了します。

そのため、2週間経過後も落葉しなかった葉は、手作業で摘葉する必要があります。